

# 「一期一会を楽しむ茶道」

～一つの茶席を、いつまでも記憶に残る素敵なものに～

2015年11月26日実施 JGA 第一支部研修レポート

11月26日(木) 12:00～15:00、花街でもあり昔の風情が残る神楽坂にて、老舗「かぐら坂 志満金」を会場に、第一支部研修「一期一会を楽しむ茶道」を実施した。

参加者は32名(正会員28名、非会員2名、運営委員1名、講師1名)、茶道に対する経験も知識も様々な通訳案内士が集まった。

テーマは「流派を超えて茶席を楽しむポイントを学ぶ」。さまざまな茶席



にお客様をご案内する機会がある通訳案内士にとって、流派を超えて共通する茶の湯の心を理解すること、また、流派によ



って異なるポイントを知っておくことは重要である。そして、少しでも茶の湯の心得や作法を知っていれば、楽しくご案内しながら一服を深く味わうことができるようになる。

今回講師をお願いしたのはJGA正会員で、古儀茶道藪内流 教授の藤本旬氏。様々な流派の茶席を通じ、流派を超えて共通する茶の心を極めるべく研究を続けていらっしゃる藤本氏は、まさに今回のテーマにぴったりの、理想的な講師である。



レクチャーに続き、和室宴会場の一角を茶室に見立て、講師が解説を加えつつ、茶席の作法の手本を一通り披露。流派による作法や所作の違いについては、藪内流や表・裏千家、また大名茶やわび茶などを例に取り、その背景も交えてわかりやすい説明があり、参加者はなるほどと得心した様子。



昼食は松花堂弁当と、評判のうな重をいただく。一人ずつ簡単に茶道経験などを交え自己紹介。食後には、何と藤本講師が洋服から和装に着替える様子を披露され、その素早さに一同感心。講師の茶席に臨む真剣な姿勢が窺われた。



参加者が数人で客になり、立ち居振る舞いを学ぶ茶席演習が特に実践的で、随時出される質問に講師が答え、納得の声があがる。後半には参加者に薄茶あるいは濃茶が振る舞われた。

研修終了後、希望者は志満金地下の茶室を見学した。「海月亭」「山庵」「松風軒」と、さまざまな形式の茶席が可能だ。今後の仕事で利用する機会も考えられる。

茶席は五感で楽しむ、お道具は一度自分で作ってみると見どころがわかる、作法は場と相手とお道具を尊重し大事にする心が根底にあることを知れば、理にかなっていてわかりやすい…。参加者のレベルによって新たな発見も学びもある、有意義な研修になったと思う。

